

## 令和2年度11月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和2年11月4日(水) 午前11時00分～11時30分  
場所 市役所2階 第1委員会室  
出席 市政記者クラブ6社

### 会見内容

#### 1. はじめに(1項目)

- はじめに、新型コロナウイルス感染症につきまして、先月10月からこれまで、釧路総合振興局管内では50名以上の方の感染が公表されている状況であります。
- 10月16日(金)には、「釧路総合振興局からのお知らせ」として、釧路総合振興局長と管内市町村長で共同の注意喚起を発出し、最近の傾向として若い世代の感染割合が高くなっていることや、自分が感染しているかもしれないという思いを持って行動していただきたいという呼び掛けを行いました。
- 10月20日(火)には、釧路市内で2件のクラスターが発生したことを受け、感染拡大防止に向けて注意喚起をするために、釧路市新型コロナウイルス対策本部会議を開催し、事業者や市民向けに、改めての感染拡大防止対策の徹底を呼び掛けるよう確認し、市ホームページやフェイスブックにおいて周知を行っております。
- この2件のクラスターにつきましては、感染者の経路をしっかりと追うことができ、市中感染にはなっていないということをご説明させていただいております。今後には収束に向かっていくものと考えております。
- GoToキャンペーンをはじめ、道内外の往来が増え、今後もますます動きが活発になることが見込まれますので、改めてマスク、手洗い等の感染症対策を行っていただくことを、市民の皆様をお願いしたいと思います。
- あわせて、事業者の方々が、しっかりと感染対策を行っておりますので、それらを利用する際に、市民の皆様には、検温や消毒、マスクの着用等について、しっかりと協力してくださいということをお話をさせていただいております。
- また、新型コロナウイルス感染症は、誰にでも感染しうるものであることから、感染者に対しての誹謗中傷は行わないでいただきたいというお願いもしております。
- まずは、感染防止対策を行っていきながら、様々なことをしっかりとまわしているという考え方で行っているところであります。

## 2. 話題提供（3項目）

### 1. 季節性インフルエンザ予防接種の助成事業について

- 最初に、季節性インフルエンザ予防接種の助成事業についてです。
- 釧路市では、このたび、受験生である中学3年生並びに高校3年生を対象に、季節性インフルエンザ予防接種の費用を一部助成することとしました。
- 助成額は、1人1回に限り1,500円で、対象となる接種期間は、10月1日（木）から2021（令和3）年1月30日（土）までとなっており、既に、予防接種を受けていても、10月1日（木）以降のものであれば対象となります。
- 受験生の中学3年生、高校3年生は、まさしく今、受験を控えておりまして、もちろん色々な救済措置等はあるのですが、誰もが行っている受験でありますので、試験日に合わせながら計画しているものがずれてしまいますと、実力が発揮できないといったこともありますので、そのような意味で、しっかりとがんばっていただこうと中学3年生、高校3年生を対象にしているものです。
- 申請等手続きにつきましては、予防接種後、市ホームページからダウンロードしたものや、健康推進課、各実施医療機関に備え付けられている、「申請書」と「請求書」に「領収書の写し」を添えて、11月1日（日）から2021（令和3）年2月28日（日）までに釧路市健康推進課へ郵送してください。
- 予防接種を受けて、受験勉強をがんばっていただきたいということでありますので、このたびの助成事業をご活用していただきたいと思っております。

### 2. 小学校高学年向けの新型コロナウイルス感染症感染予防ハンドブック「新型コロナを知ろう！！」について

- 続いて、小学校高学年向けの新型コロナウイルス感染症感染予防ハンドブック「新型コロナを知ろう！！」についてです。
- このたび、新型コロナウイルス感染症の感染防止に対し、正しい知識と理解を持っていただくために、子どもたちにもわかりやすく伝えていこうということで、釧路市政策アドバイザーの坂元 晴香先生の監修のもと、9月に発行した市民向けの「新型コロナウイルス感染症感染予防ハンドブック」に引き続き、内容をさらに分かりやすくした、小学校高学年向けとしたハンドブック「新型コロナを知ろう！！」を本日11月4日（水）に発行いたしました。
- 市民向けのハンドブックにつきましても、わかりやすかったのですが、子ども向けということで、よりわかりやすい形となっておりますので、ぜひ、多くの皆様に、色々な場面で見ただければと思っております。
- 今後につきましては、小学校の学級活動などにて、児童への普及啓発にこのたびのハンドブックを活用していく予定となっております。
- また、小学校低学年に向けても、新型コロナウイルス感染症についての正しい知識をしっかりと伝えていけるよう、検討しているところであります。

### 3. 追加インターチェンジ 釧路空港IC（仮称）の事業許可について

- 続いて、追加インターチェンジ 釧路空港 IC（仮称）の事業許可についてです。
- 釧路市は、これまで管内各自治体と共に、釧路総合開発促進期成会などを通じて、釧路空港 IC の設置を北海道や国に要望してまいりました。
- このたび、10月16日付で国土交通大臣より北海道知事あてに事業許可が出されたところであります。
- 釧路空港 IC が設置されることにより、まさしく、高速道路の地域と地域をつなぐ、そして空港と空港、空港と都市をつなぐといった形で活用できるものであります。私どもは、北海道の広い大地のスケールメリットを生かすためには、高速道路を通ることで、時間短縮のメリットをしっかりと考えるということをお話させていただいているところであります。そのような意味からも非常に良かったと考えているところであります。
- 今回、釧路空港 IC の設置要望から事業許可に至るまで、釧路総合開発促進期成会も含め、国土交通省北海道開発局釧路開発建設部や北海道釧路総合振興局、各関係機関の皆様にご理解とご協力をいただいたことにつきまして、改めまして感謝を申し上げます。
- なお、釧路空港 IC の開通時期につきましては、阿寒 IC～釧路西 IC 本線の事業進捗状況により未定となっておりますが、17 kmの本線の事業そのものは順調に進んでいるとお聞きしております。
- 今後につきましても、釧路空港 IC を含めた阿寒 IC～釧路西 IC 間の早期開通に向けて、しっかりと要請していきたいと考えております。

### 3. 質疑要旨

(質問)

- ・ 季節性インフルエンザ予防接種の助成事業については、今年度、新しく始めた事業になるのでしょうか。また、中学3年生と高校3年生の対象人数について教えていただきたい。

(市長)

- ・ 本事業は、今年度からの新しい事業になります。

(保健相談主幹)

- ・ 対象人数は、中学生が1,315人、高校生が1,459人となっております。

(質問)

- ・ 新型コロナウイルス感染症感染予防ハンドブックについて、低学年向けにも考えておられるということなのですが、これは今回の高学年向けのものと同じようにハンドブックの形で作られる予定でしょうか。

(市長)

- ・ 低学年向けについては、紙芝居のような形を想定しています。

(保健相談主幹)

- ・ 幼児から小学校低学年ぐらいまでが対象となるように考えていますが、こちら

につきましても政策アドバイザーの坂元先生と相談しながら、どのようなものが効果的であるか検討しているところです。

(市長)

- ・ 感染防止について、正しい情報をわかりやすく子どもたちに伝えていくことは重要でありますので、現在、取り組んでいるところです。

(質問)

- ・ 前回発行した市民向けのもの子ども向けのハンドブックの大きな変更点は、主にどのような点があるのでしょうか。

(保健相談主幹)

- ・ 市民向けのハンドブックは、専門用語が今まで多かったことから、その言い回しをさらにわかりやすく工夫したということもありますし、学校生活等にあわせて、行動レベルにおとした注意事項をピンポイントで記載したことや、誹謗中傷に繋がる行動についての注意などの呼び掛けについて、内容が付け加えられています。

(質問)

- ・ こちらのハンドブックを活用するのは、いわゆる学級活動やホームルームの時間等ということでしょうか。

(保健相談主幹)

- ・ 現在、教育委員会や校長会を通してお願いをしております、例えば、朝の活動の時に活用していただくであるとか、それぞれ学校の方で決定されることと思いますが、そのような際に活用していただくようお願いをしております。

(質問)

- ・ 市長の4期目の任期が始まり、最初の会見ということで、改めて次の4年間への思いと、釧路都心部まちづくり計画等大きな事業が控えておりますが、どのように進めていきたいかについてお聞かせください。

(市長)

- ・ 4期目につきましては、11月2日からスタートしたところであります。選挙終了後には、市内での新型コロナウイルス感染症に係るクラスターが発生したこともありまして、新型コロナウイルス感染症対策で動いてきたところでありました。改めて、4期目がスタートしたということで、選挙でもお話しさせていただいたことについて、邁進していこうといった決意であります。2期目の任期の頃からですが、時間軸というものをしっかりと持っていこうということです。私は自分の時間軸は週単位で考えており、1年間52週ですので、4年間で208週となります。この208週の中で、色々な事業の内容にもよるのですが、2週単位であるとか、そのような感じで物事を区分けしながら行ってきたところであります。実際に今までの12年間で、これはどの程度であるといった目安等を踏まえ、しっかりと行っていきたいと思っております。当面の喫緊の課題は、やはり、新型コロナウイルス感染症に係る対策と、この状況下で、どのように地域経済をまわしていくのかということが重要になりますので、これらについて、しっかりと進めていくことが重要であると思っております。あわせまして、新型コロナウイルス感染症対策の最初の時からお話してきたことではありますが、今、地元にある会社や団体も含めて、生き残り、みんなで乗り越えていくことが重要であると思っておりますので、そのような立ち位置にしっかりと立った中で、感染防止対策並びに活性化させるといったところを頑張っていくことが、まず第1番目であ

ります。この他に、この街の中で、これから必要なものということで、色々な計画があります。釧路市は、ひがし北海道の拠点都市としての位置付けであり、これからも担っていかねばいけない責任を踏まえていった時に、街の機能をしっかりと充実していきながら進めていくため、都心部周辺を中心市街地活性化に係る計画がそこに位置付けられております。来年3月に事業構想がまとまっていく中で、その後、3年ぐらいの時間軸の中で、様々な折衝や要請といった作業を行いながら進めていくスケジュールになりますので、この度の任期の中で構築できるように最大限努力していきたいと思います。このように、街の中で色々なことが動いており、先々に、色々な可能性があるといったことを気付いていくことが、何よりも重要なことであると考えているところです。そのような意味では、情報発信力が非常に不足していたと言われていた12年間でありましたので、しっかりと発信をしながら考え方を言っていかなければならないと考えております。今までは、どうしても市長といたしても、行政みたいなものですから、決まったことしかお伝えできないような状況が色々ありました。そうではなく、決まっていない状況でも、どのような形で進めていくかといった内容の発信をできたらと考えております。

(質問)

- ・ 市長がご自身の Facebook で、新型コロナウイルス感染症に係る情報を、市の Facebook とは別に発信しているのは、まさに、今、お話していたような狙いがあるということでしょうか。

(市長)

- ・ はい、そうです。これは、発信することの必要性を、市議会議員の皆様や道議会議員の皆様も含め、強くご指摘をいただきまして、また、どのようなものを皆さんが見たりするのかということをお聞かせいただき、やはり情報発信というものは重要であるということをお強く感じたところです。そこを行政のホームページということになると、決まったことであるとか、確定したことになりがちです。やはり、そうではない形について、市長という立場での Facebook の活用、SNS の活用ということで情報を出していきながら、市民の方々と色々なことをキャッチボールしていきながら、一体となれるように努めていきたいと考えて行っているものです。

(質問)

- ・ 新型コロナウイルス感染症のPCR検査センターの設置について、11月中というお話があったと思いますが、開設時期の見通しについて、教えてください。

(市長)

- ・ 私も、11月ということで、お話をさせていただいており、今週月曜日に進捗状況等を確認したところでありますが、まだ、全てがまとまっていない状況であるということでしたので、しっかりと整理をするように指示をしたところです。PCR検査センターを設置するに当たっては、まず自治体から設置する旨の宣言が必要で、それを行うことによって、様々な準備が始まっていきます。そのような意味で、9月の段階でPCR検査センター設置ということをお医者会からの要請も受け、決めてきたものであります。その後、10、11月となり、今は少し時間が掛かっておりますので、何とか早急に進めていきたいと思っております。

(質問)

- ・ 設置場所や検査方法等がまとまっていないということでしょうか。

(市長)

- ・ 設置場所については、まとまっていると伺っております。あとは検査の機器についてと聞いております。検査機器については、仮予約といったものがないということなのです。PCR検査センターを設置すると言って、初めて検査機器を発注できるという仕組みですから、まず、設置をするということをしかりとお話させていただいて、機器等がいつまでに準備できるのかということだと認識しております。そのような細かいところが、どのような状況になっているのかということをお報告するように、今週月曜日に指示したところであります。

(質問)

- ・ 医師会のお話によりますと、検査方法は、ドライブスルー方式であるといったお話があったと思うのですが、決まっているのでしょうか。

(市長)

- ・ 基本的には、ドライブスルー方式で行っていくということであります。

(質問)

- ・ 準備が進んできた釧路火力発電所が、今月から正式稼働という予定であったのですが、どうやら遅れているようです。会社側に聞く限り、今月中に稼働することですが、稼働開始に当たって、まだ付近の住民の方々にも懸念もあるかと思しますので、市として、釧路火力発電所や株式会社IDIインフラストラクチャーズに、今後、求めていくものがあれば、教えていただきたい。

(市長)

- ・ 日本で唯一の坑内掘り稼行炭鉱であります釧路コールマイン株式会社(KCM)との地産地消というモデルで、安定的に存続していくということでありますので、釧路火力発電所には、しっかりと稼働していただきたいということを望んでおります。当初の計画から稼働開始時期が遅れ、本年11月ということではありますが、色々な調整等があり、しっかりと安定的に稼働できるように進めていただいているところでありますので、ここにつきましては心配していないところであります。稼働後でありますので、このような地産地消モデルとして、しっかりとその役割を担っていただくということを、地域の皆様に、これまでも説明させていただいており、釧路火力発電所の丁寧なご説明等も行っているところでありますので、しっかりとデータ等をオープンにしていきながら、安全性、そして信頼を得ていけるように努め、そして、地産地消モデルとして、長く成り立っていけるように、私どもも一緒になって取り組んでいきたいと思っております。

(質問)

- ・ これまでも騒音の問題等があったと思いますが、そのような意見があった場合は、今後も会社の方に伝えていくということでしょうか。

(市長)

- ・ はい。今までもそうでありましたが、しっかりとデータに基づきながら進めていきたいと思っております。情報を開示し、オープンにしていきながら進めていくということが重要なことだと思っております。釧路火力発電所は、そのような形をとっていくことが重要なことだと思っており、私どもは、そのような意味では同じ方向で進めていこうと思っております。